



乳児に対する救命処置の手順

①反応(意識)の確認

- 声をかけながら反応があるかないかを確認めます。足の裏を刺激するのも有効です。

②助けを呼ぶ

- 反応がなければ、助けを求めます。
- 協力者が来たら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と、具体的に依頼をしてください。

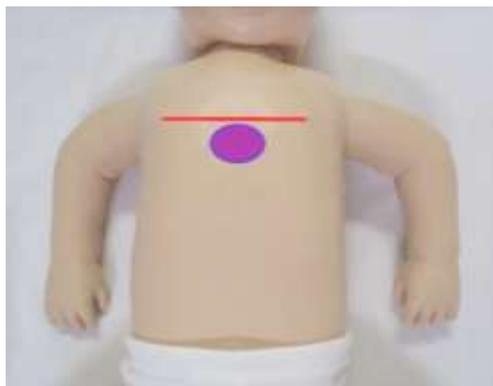
☆ 協力者が誰もいない場合は、次の手順にうつる前に、自分で119通報をし、AEDを用意します。

③呼吸の確認

- 胸や腹部の上下を見て、普段どおりの呼吸をしているか判断します。

④胸骨圧迫

- 圧迫の位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とする胸骨の下半分です。
- 圧迫は指2本で行います。
- 1分間に100～120回のテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。
- 圧迫の強さ(深さ)は、胸の厚みの1/3が沈むように、**強く、速く、絶え間なく**圧迫します。乳児だからと、弱く圧迫しては効果が得られません。



乳児の胸骨圧迫部位



乳児への胸骨圧迫

⑤人工呼吸

- 準備ができしだい、気道確保をしながら人工呼吸を開始します。

☆ 基本的には、胸骨圧迫を30回の後、人工呼吸を2回行いますが、胸骨圧迫よりも早く人工呼吸を行えるのであれば、人工呼吸から心肺蘇生を行ってもかまいません。

- 乳児の大きさでは、口対口人工呼吸が難しい場合があります。

この場合は、口と鼻を同時に覆う口対口鼻の人工呼吸を行います。



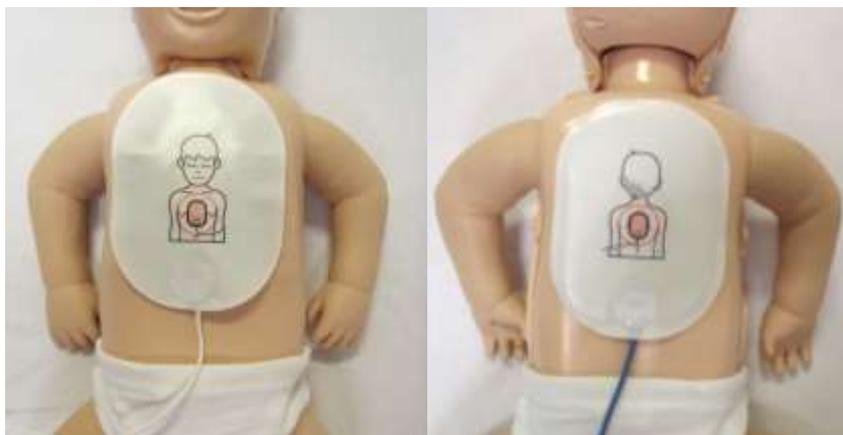
乳児への人工呼吸(口対口鼻)

⑥心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)を繰り返し続ける

- 胸骨圧迫を30回連続した後に、人工呼吸を2回の組み合わせを絶え間なく続けます。

⑦AEDの使用(※乳児にも、AEDを使用できます。)

- AEDに小児用パッドがある場合にはそれを使用し、ない場合は、成人用パッドを使用します。AEDによってはスイッチを切り替えたり、小児キーを差して小児モードに切り替えるタイプもあります。
- パッドを貼る位置は、パッドに表示されている絵に従います。



◎もし心停止をしてしまったら・・・

まずはいち早く119番通報をし、呼吸が確認できないときはただちに心肺蘇生を実施し、胸骨圧迫の手をできるだけ止めることなく、強く・早く・絶え間なく続けましょう。

そうすることで、脳に血がめぐり、脳細胞が死んでいくのを防ぐことができます。

また、子供の事故の場合は呼吸が停止することで心停止になることが多いので、人工呼吸が非常に効果的です。息を吹き込むだけで状態がよくなるかもしれません。

実際の心停止の場面では、そばにいるご両親は、動揺してとっさに動けないかもしれません。でも、何もしないよりは勇気を持って何かをしてあげてください!



乳児に対する気道異物除去の方法

- 気道異物による窒息と判断したら、ただちに119番通報を依頼し、異物除去を行ってください。
- 反応がある場合には、乳児に対しては背部叩打法と胸部突き上げ法を実施します。

・背部叩打法

- 救助者の片腕の上に乳児をうつ伏せに乗せ、手のひらで乳児の顔を支え頭部が低くなるような姿勢にします。
もう一方の手の付け根で、背中の中を異物が取れるか反応がなくなるまで強くたたきます。



乳児に対する背部叩打法

・胸部突き上げ法

- 救助者の片腕の上に乳児の背中を乗せ、手のひらで乳児の後頭部を支え頭部が低くなるように仰向けにします。
もう一方の手の指2本で、両乳頭を結ぶ線の足側を目安とする胸骨の下半分を強く数回連続して圧迫します。
(※心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ要領です。)



乳児に対する胸部突き上げ法

- ☆ 乳児に対しては、腹部突き上げ法を行ってはいけません。
- ☆ 反応がなくなった場合は、乳児に対する心肺蘇生法を開始します。



消防本部では乳幼児に対する心肺蘇生法やAEDの使用法などの講習も行っています！